

第17回目となる今回は、山梨県立大学 国際政策学部 国際コミュニケーション 学科3年 佐々木冠菜さんが、鈴木製菓 株式会社 代表取締役社長 鈴木浩文氏 を取材しました。



学生

山梨県立大学
国際政策学部 国際コミュニケーション学科
3年 佐々木 冠菜 さん

一期一会

経営者

鈴木製菓 株式会社
代表取締役社長
鈴木 浩文 氏



▶ 学生

会社概要、事業内容について教えてください。

▶ 経営者

鈴木製菓株式会社は、曾祖父の代から製菓業を営み、先々が昭和10年5月1日に甲府市湯田にて開業しました。先代が継承後の昭和59年10月株式会社に改組し、現在の山梨県食品工業団地内に移転しました。平成17年12月、先代の死去のため私が後継として代表者になりました。代表商品「栗しぐれ」は1日に3トン生産し、全国に販売、40年の間愛され続けているロングセラー商品です。それ以外にも、「京桃山・どら焼き」など半生和菓子の製造・生産を事業内容としています。

▶ 学生

商品についてご紹介ください。

▶ 経営者

「栗しぐれ」をはじめとする半生和菓子を主力商品として生産しています。当社は船から自社で製造し、半生であることで生菓子よりも高い安全性を特色としています。また、上白餡を焼き上げ、栗の様なまろやかな味わいの特徴とする代表商品「栗しぐれ」が40年間のロングセラーとなった理由は「個性がないのが個性」という「オーソドックスでシンプルな味の良さ」を大切にしてきたからだと考えています。個装にした商品です

ので、家族や大人数で楽しめるという点も人気の理由だと思います。一つ食べると、ついつい次も手が出てしまうんですね。

▶ 学生

御社が求める人材とは。

▶ 経営者

一番は「コミュニケーション能力」のある人ですね。いくら仕事ができても、一人ではなにもできません。周りとのコミュニケーションをとり、チームワークで働くことが大切です。私だって周りの方々に助けられて社長をすることができています。また、どんな仕事でも、続けようと思え、仕事を楽しむこと・好きになる努力ができるということも大事です。世の中って理不尽で、自分のしたい仕事につけることなんてめったにありません

よ。ほとんどの人は、そうなんじゃないかな。そんな中でも、与えられた場所や業務に前向きな姿勢で一生懸命取り組める人には仕事を任せたいと思います。少し余談になりますが、先日、大学生と経営者との交流会がありました。みんな、私たちの話を熱心に聞いてくれてすごく楽しかったですね。大学生たちも私たちも始まる前まではお互い初めての人に会うので、緊張していたと思うんです。でも実は、コミュニケーション能力は、初めての人と会う時に一番力がつくらしいんですよ。だって、初めての人に気に入ってもらうために、自分の魅力を全力でアピールするんですからね。だから怖がらないでいろんな「初めての人」に会いに行ってください。その経験を重ねる事がコミュニケーション能力や人間力を高める一番のトレーニングだと思います。

取材を終えて…

就職活動で最初に中小企業に注目する学生は少ないと思います。私も、今回鈴木社長とお話させていただいて、「中小企業の良さ」について考えることができました。アットホームな環境、雇用者と従業員の近い距離感、やりがいなど実際にお話を聞く機会と自分の目で見たことで、中小企業についてもっと研究していきたいなと思っています。また、社長さんとお話するということで、すごく緊張していたのですが、鈴木社長の優しい人柄やジョークのおかげで緊張がほぐれ取材時間をオーバーしてしまいました。社会人の方、特に経営者の立場からのお話を聞けたことで「雇用する側」も人材の育成や確保には苦労されているということ、働くことの意義などを感じました。就活生の私にとって、鈴木社長のお話はこれからの就活の「緊張」もほぐしていただける良い機会となりました。今回の取材のためにお時間をいただいた鈴木社長、本当に貴重な機会をありがとうございました。

